

巻 頭 言



福島県知事 内堀 雅雄

福島県の復興に向けた挑戦、 世界への情報発信

東日本大震災から8年余りが経過いたしました。

福島県は、地震、津波、原子力発電所の事故という、世界でも類を見ない複合災害に見舞われましたが、この間、世界中から数多くの温かい御支援を頂いておりますことに深く感謝申し上げます。

当県は震災からの復興に向け、さまざまな施策に取り組んでまいりました。

原発事故直後、風評被害により県産農産物の輸出は、大幅に減少しました。当県では、国が定める世界で最も厳しい放射性物質の安全基準に基づき、基準値を超えた物は絶対に出荷させないシステムを確立し、安全・安心な農林水産物のみを流通させる取組を行っています。こうした取組やおいしさ、品質の高さについて理解が広がり、県産農産物の2017年の輸出量は、震災前の水準を超え、過去最高を達成しました。県産の桃は主に、タイ、マレーシア、インドネシアに、米は、マレーシアを中心に輸出を行い、海外の方々に品質が高くとても美味しい県産農産物を味わっていただいています。

また、福島酒は、全国新酒鑑評会において、金賞受賞数6年連続日本一という史上初の快挙を達成しました。さらに、世界最大級のワイン品評会である「IWC（インターナショナル・ワイン・チャレンジ）」において、2015年と2018年に、福島県産酒が日本酒部門の最優秀賞であるチャンピオン・サケに選ばれるなど、国内外で高い評価を得ています。

このように食の安全・安心の確保と魅力について発信するとともに、海外からの観光客を増やす取組にも力を入れています。福島県の魅力を全面に押し出し、ユーチューブを利用した外国人目線による情報発信や、近隣の県と連携して海外の方々を呼び込むことで、2018年にはインバウンドの宿泊者数が震災前を超える実績となりました。

こうしたチャレンジを続けていく中、福島県は、2020年東京オリンピック聖火リレーのグランドスタートの地に選ばれるとともに、福島県営あづま球場で開催されるソフトボールが、東京オリンピック・パラリンピック全体の開幕戦となることも決まりました。福島県はまだまだ難しい課題をたくさん抱えておりますが、本当の意味での復興オリンピック・パラリンピックになるようにしっかりと準備を進めてまいります。

この機会に、世界中から多くの方々に実際に福島を訪れていただき、美しい自然、歴史・文化、食や酒などを味わっていただきたいと考えております。